

【専門教育科目/看護の統合と発展】

科目名		ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
災害看護援助論		NSP43_001	必修	1	4	後期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
伊丹 幸子 他		304	s.itami	月曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	災害看護論の学びを基に、近年の我が国における大規模災害と山梨県東部地区の災害想定を理解し、発災後の災害サイクルに応じた看護の果たす役割と看護活動の基礎となる知識・技術について学習することを目的とする。また、減災・防災のための災害発生前の看護活動について学ぶ。さらに、災害発生時における避難所開設や運営等発災直後の傷病者受け入れ等の実践的な知識・技術を学ぶ。					
授業形式・方法	☒対面授業 ☐遠隔授業(双方向型) ☐遠隔授業(自主学習) ☒講義 ☐実習 ☒演習 ☐実技 ☐PBL ☒グループワーク ☐その他（ ☐反転授業 ☐プレゼンテーション ☐実習・フィールドワーク ☐ディスカッション・ディベート ☐実習・フィールドワーク					
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中およびリアクションペーパー、オフィスアワーにて受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めてほしい。					
教科書	新体系 看護学全書 統合分野 看護の統合と実践 災害看護学 第3版 /編:小井土雄一 他 /オチカールフレンド 社 /2020					
参考書	・演習で学ぶ災害看護 /監:小原真理子 /南山堂 /2010 ・災害看護学・国際看護学 /編:竹下喜久子 /医学書院 /2019					
外部教材	特になし					
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	人体構造機能学、病態生理学、検査、疾病治療学に関する医学的基礎知識を統合し、災害発生時の被災者の心身に及ぼす影響を論理的に理解することができる。				NS(1)	
②	発災後の災害サイクルに応じた被災者の生活の場で求められる看護知識、技術について理解することができる。				NS(1)(2)	
③	災害発生前における減災・防災のための看護活動について理解することができる。				NS(1)(5)	
④	災害時における要配慮者の健康問題とその対応法について理解することができる。				NS(1)(2)(4)(5)	
⑤	発災後の被災者の「生きる」を支えるために必要となる実践的な知識と技術を習得することができる。				NS(1)(2)(4)(5)	
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	災害発生時の現状と今日の課題について 災害サイクルの復習		講義 演習	国内の災害の現状についての情報を新聞等から得ておく。（ワークシート 1）		1
2						1
3	災害時の看護実践①情報伝達の技術		講義 演習	富士東部地区の地域防災計画等から災害想定の情報を得ておく。（ワークシート 2）		1
4						1
5	災害時の看護実践②災害時のコミュニケーション技術		講義 演習	教科書 P184～196 を読み、災害時のこころのストレスについて、復習する。（ワークシート 3）		1
6						1
7	災害時の看護実践③五感をを用いた観察の基本		講義 演習	教科書 P154～178 を読み、災害時、要配慮者への救護について復習する。（ワークシート 4）		1
8						1
9	災害時の看護実践④災害時の身体ケア		講義 演習	教科書 P208～221 を読み、災害時に起こる身体侵襲についてまとめる。（ワークシート 5）		1
10						1
11	災害時の看護実践⑤HUG の理解、運営		講義・グループワーク・演習	教科書 P81～86 を読み、避難所における看護について復習する。（ワークシート 6）		1
12	演習①トリアージ 演習②トリアージ		演習・グループワーク	災害看護論で学習した避難所、パブリックヘルスについて授業資料と教科書等で再度確認する。		1
13						1
14	演習③HUG 演習④HUG			HUG の知識と技術について再度確認する。		1
15						1
試	定期試験（筆記試験・ポートフォリオ提出）					

【専門教育科目/看護の統合と発展】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	0	0	30	10	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	0	0	10	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	10	10	20
	問題を発見・解決する力	10	0	0	10	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験とする。看護師国家試験を同じレベルの試験とする。				メールで回答の解説を送付する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①	✓	ワークシートをまとめ、ポートフォリオにできる。記録物等適切な収集・整理ができる。				11 回講義で説明する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
その他	①	✓	日々の受講態度等を総合的に評価する。				問題が生じた場合は、個別に面接を行う。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他 担 当 教 員		山崎洋子、堀口まり子					
教 員 の 実 務 経 験		伊丹：35 年の県および市町村の行政保健師経験があり、災害時の計画の作成及び対応や数回の県外災害派遣を経験している。山崎：保健師として保健所、市町村に 1 0 年勤務、また大学病院の医療連携室での退院調整や療養生活相談等に勤務した経験を有する。堀口：看護師として、病院において災害看護を経験を有する。					
実践的授業の内容		保健所・市町村における行政保健師活動、災害援助活動および訪問看護活動等の実務経験を元にして、内容を構築し、災害看護について理解を深める。教員の経験からさまざまな事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習および演習を行う。					
そ の 他		・ 毎回講義に出席し、積極的な態度で授業に臨むことを重んじる。原則として理由のない欠席はしないよう心がけること。 ・ 学生の理解度に応じ、講義の速度や順番を調整する可能性がある。 ・ Teams を使った同双方向型授業も実施する可能性があるため、通信容量無制限の Wifi 環境を推奨する。 ・ 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢により、再度シラバス内容が変更となる可能性がある。					